令和３年 10 月 28 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関するお知らせ

～週間天気予報解説資料の改善と全般週間天気予報の提供終了の実施日～
（令和３年４月１日付配信資料に関するお知らせ
及び平成 11 年４月 23 日付配信資料に関する技術情報第 47 号関連）

令和３年４月１日付配信資料に関するお知らせにてお知らせしていた、週間天気予報解説資料の改善日と、全般週間天気予報の提供終了日が決まりましたのでお知らせします。

１．週間天気予報解説資料の改善

① 変更日　令和３年 12 月 15 日（水）発表から

② 変更するプロダクト

データ形式	ファイル名
PDF	Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_JCIskaisetu_image.pdf

yyyyMMddhhmmss はファイルの配信時刻の年月日時分秒を UTC（協定世界時）で記述。
形式、ファイル名は変更なし。

③ サンプル　別紙１参照

④ ファイルサイズ　約 1～3MB

⑤ その他
配信時刻は変更なし。
気象庁ホームページの、気象の専門家向け資料集に掲載している週間天気予報解説資料も③④の通りに変更。ファイル名、URL は変更なし。

２．全般週間天気予報の提供終了

① 提供終了日　令和４年１月 31 日（月）付発表をもって提供終了

② 終了するプロダクト

データ形式	データ種類コード：情報名
XML	VPZW50：全般週間天気予報

問い合わせ先：気象庁大気海洋部業務課第一計画係
電話：03-6758-3900（内線 4120）

サンプル

別紙

週間天気予報解説資料

2021年10月13日10時00分発表
気象庁

予報期間　10月14日から10月20日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

• 17日は、オホーツク海の低気圧からのびる寒冷前線が北日本を通過し、北日本にはT850で0℃以下の寒気が南下する。その後18日にかけてきた一時的に北日本は西高東低の冬型の気圧配置となる見込み。

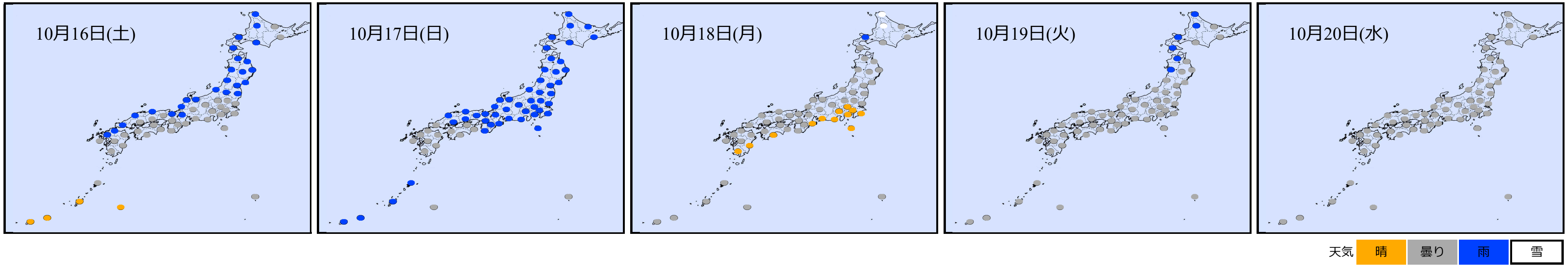
＜防災事項＞　11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

• 17日頃は、北海道を中心に荒れた天気となる見込み。オホーツク海付近の低気圧の発達の程度等によっては大荒れとなる可能性もある。
• 最高・最低気温は、16日までは平年より高い所が多いが、17日以降は平年より低い所が多くなる。気温の変動が大きくなるため、体調管理等に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

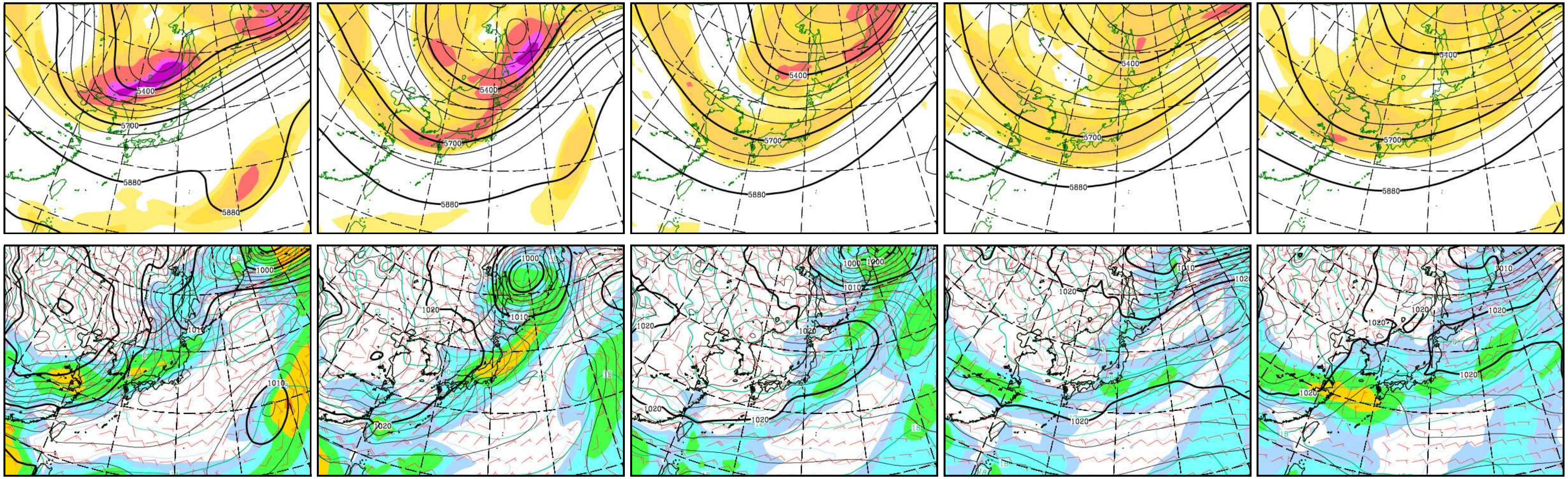
◆10時時点の３～７日目の天気予報案　(11時以降は気象庁HP等にて発表予報を参照ください。)



• 16日は、気圧の谷や前線の影響で北日本や東・西日本の日本海側を中心に曇りや雨となる。
• 17～18日は、この時期としては強い寒気が南下するため、北日本と東・西日本の日本海側や沖縄・奄美を中心に曇りや雨で、北日本では雪の所もある。
• 19～20日は、気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、寒気の影響が残る北日本と東日本日本海側は雨が降る所もある。

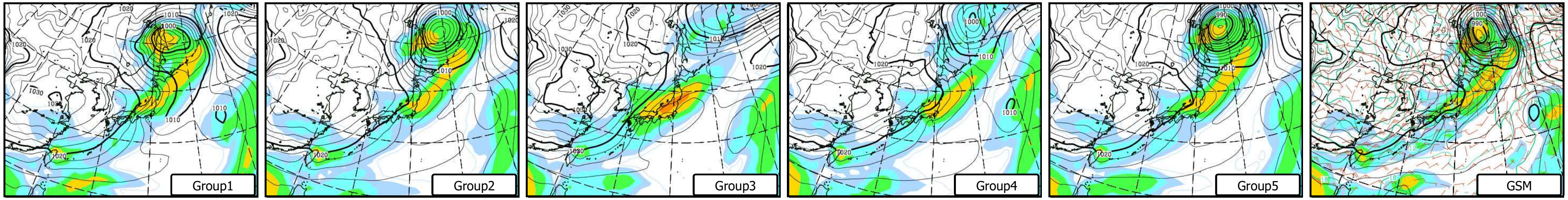
◆アンサンブル(ENS)平均予想図　上図：500hPa高度線、渦度　下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)

10月16日(土)　10月17日(日)　10月18日(月)　10月19日(火)　10月20日(水)



渦度(10^{-6}/sec以上)　0　10　20　40　80　100　風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆10月17日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図　海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 17日頃に日本付近へ進むトラフが深まり傾向がみられる他は初期値変化は小さい。ただし、17日頃は北日本に近い位置で低気圧を発達させるクラスターもある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- モデル間の違いは小さくおおむねENSを基本に考える。本日資料では17～18日にT850≦-6℃の寒気が北海道北部にかかる程度だが、日本付近へ進むトラフは深まり傾向となったモデルもあるため、今後の資料に留意する。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。